

白い下地

泉鏡花

青空文庫

色といえ、恋とか、色情とかいう方面に就いての題目ではあるうが、僕は大に埒外に走つて一番これを色彩という側がわに取ろう、そのかわり、一寸仇ツぽい。

色は兎角とかく白が土台になる。これに色々の色彩が施されるのだ。女の顔の色も白くなくツちや駄目だ。女の顔は浅黒いのが宜いというけれど、これとて直ちにそれが浅黒いと見えるのでは無く、白い下地が有つて、始めて其の浅黒さを見せるのである。

色の白いのは七難隠すと、昔の人も云つた。しかしながら、ただ色が白というのみで意気の鈍い女の顔は、黄いろく見えるような感じがする。悪くすると青黒くさえ見える意気がある。まったく色が白かつたら、よし、輪郭は整つて居らずとも、大抵は美人に見えるように思う。僕の僻見かも知れぬが。

同じ緋縮緬の長襦袢を着せても着人きてによりて、それが赤黒く見える。紫の羽織を着せても、着人によりて色が引き立たない。青にしる、浅葱にしる、矢張着人によつて、どんよりとして、其の本来の色を何処かに消して了う。

要するに、其の色を見せることは、其の人の腕によることで、恰あたかも画家が色を出すのに、大なる手腕を要するが如しだ。

友染の長襦袢は、緋縮緬の長襦袢よりは、これを着て、其の色を發揮させるに於いて、確に容易である。即ち友染は色が混まじつて居るがため、其の女の色の白いと然らざるとに論無く、友染の色と女の顔の色とに調和するに然さまでの困難は感ぜぬ。緋縮緬に至つては然さにあらざることは前に述べた。

是を以て見るに、或る意味から之をいえば、純なる色を發揮せしむることは困難とい得る。さればこそ混濁された色が流行するようになって来た。かの海老茶袴は、最もよくこれ等の弱点を曝露して居るものといわねばならぬ。

また同じ鼈甲を差して見ても、差手によつて照てりが出ない。其の人の品ひんなり、顔なりが大に与あずつて力あるのである。

すべての色の取り合わせなり、それから、櫛なり簪なり、ともに其の人の使いこなしによつて、それぞれの特色を發揮するものである。

近来は、穿き立ての白足袋が硬こわく見える女がある。女の足が硬く見えるようでは、其の女は到底美人ではない。白い足袋に調和するほどの女は少いのである。美人が少いからだ。足袋のことをいうから次手に云つておく。近来は汚れた白足袋を穿いて居るものが多い。敢えて新しいのを買えとはいわぬ。せつせつ洗えば、それで清潔きれいになるのである。

或る料理屋おちややの女将かみさんが、小間物屋がばらふの櫛を売りに来た時、丁度半纏を着て居た。それで左手をつ支いて、くの字なりになつて、右手めてを斜に高く挙げて、ばらふの櫛を取つて、透かして見た。その容姿すがたは似つかわしくて、何ともいえなかつたが、また其の櫛の色を見るのも、そういう態度でなければならぬ。今これを掌へ取つて覆かえして見たらば何うか、色も何も有つたものではなからう。旁かたがた々これも一種の色の研究であらう。

で、籠甲にしろ、簪にしろ、櫛にしろ、小間物店にある時より、またふつくらした島田の中に在る時より、抜いて手に取つた時に真の色が出るのである。見られるのである。しかしながら長襦袢の帯を解いた時に色を現すのはこの限にあらず。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆7 色」作品社

1983（昭和58）年5月25日第1刷発行

1999（平成11）年2月25日第20刷発行

底本の親本：「鏡花全集 第二十八卷」岩波書店

1942（昭和17）年11月

入力：門田裕志

校正：林 幸雄

2002年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

白い下地

泉鏡花

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>